「わがまち紹介」活動の感想

京都工芸繊維大学訪問の感想

猛暑の夏が過ぎ、やっと秋らしく涼しくなった10月５日、「わがまち紹介」活動で、京都工芸繊維大学を訪問・見学させて頂きました。

最寄り駅、京都地下鉄烏丸線の松ヶ崎駅で下車しました。会長より 松ヶ崎地区が「昔は稲作を中心とした豊かな〝まち〟」だった事などの説明を聞きました。

京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパスへ向かいました。

京都工芸繊維大学
中央西門前

キャンパスの「美術工芸資料館」では、並木館長様より初代諏訪蘇山陶芸家の代表作等の説明を詳しくして頂きながら個々の展示品を見学しました。

特に青磁は、淡青色に何とも言えない癒やされる魅力を感じました。

青磁不遊環花瓶

中には、ユニークな作品もあり、それには力強さも感じました。

そしてもう一つ、百年以上前の石膏型が多数残されていた事です。展示会場にも、一つの作品に対して大小数十個の型枠が展示されていて驚きました。

京都工芸繊維大学の研究部門が三次元測量をおこない、欠損や亀裂などの損傷をデジタルデータ上で補修をおこない石膏型の複製をつくり、再現品の制作に取り組んおられるとの事でした。

初めて耳にする陶芸家でしたが、とても印象的な方でした。

その後、ちょっと早めの昼食には安くて美味しい学食をゆっくり頂き、満足して帰って来ました。

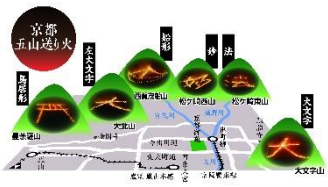
記：明見容子

京都に根ざした京都工芸繊維大学訪問

今年の猛暑の夏も10月に入り急に涼しくなり、秋を迎えました。

10月５日、ＶＧ槻輪の皆様と京都市左京区松ヶ崎地区にある、国立京都工芸繊維大学を訪問・見学に行きました。

松ヶ崎地区は、古い時代から米作りが行なわれた豊かな農村地帯だったようです。



８月16日
京都五山送り火　配置図

お盆に催されるこの地区の「妙法送り火」や「題目踊り」を見てみたいと思いました。

私が小学生４・５年の頃、学校で蚕を飼っていました。

京都工芸繊維大学については、この時先生に引率されて、嵯峨キャンパス（嵯峨一本木町）へ桑の葉をもらいに行ったことがあります。

学生さんが、枝ごと刈り込まれた桑の葉を新聞紙にくるんで下さった事を思い出します。

このような事から、京都工芸繊維大学を農大だと思っていました。

今回、左京区松が崎地区にある「松ヶ崎キャンパス」を訪問しました。

京都工芸繊維大学
松ヶ崎キャンパス
中央東門
大学の塔

緑の木に包まれた垣根伝いに、松が崎キャンパスの正門に向い、中央西門から校内に入り、美術工芸資料館に入りました。

並木誠士館長からは、京都工芸繊維大学の設立時からの説明を受け、工芸と繊維が合体した国際的な工科大学であることをお聞きしました。

美術工芸資料館では、「初代諏訪蘇山展」が開催されていて、館長に説明をして頂き、石膏型を用いた成形技法で見事な諏訪蘇山の青磁を見学することが出来ました。

京都には、高度の技術の仏具や西陣織などあり、とっても京都と関係深い大学だと思いました。

資料館の見学後、食堂で美味しい学食を頂きました。

記：宝角弘枝

左京区松ヶ崎地区とは

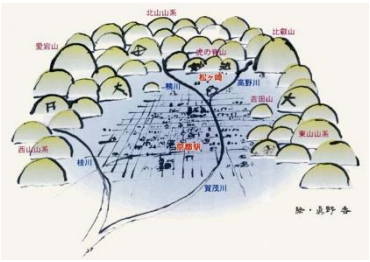
京都市松ヶ崎地区は、高野川と鴨川の三角洲で出来た、田畑に適した土地でした。

明治22年の町村制発足により村となりました。昭和６年、京都市左京区に編入合併して、村の名前は消滅しました。

松ヶ崎では、平安京遷都直後から米作りが行われた記録があるほか、源氏物語の夕霧の帖にも「松が崎」の名が現れている。稲作を中心とし、麦や菜種を裏作で作る豊かな土地だった。

宝が池は江戸時代宝暦年間に農業用のため池として作られた人工池で、もともと湧水があった深田の東側に堤を作ってせきとめたものです。

1855年（安政２年）、松ヶ崎の北にある深田をため池にするための修理・拡張工事がなされた。「宝ヶ池」という名前は、水不足から開放されたお百姓にとって、宝物のような価値のある池という意味からつけられたとも言われている。宝の水を松ヶ崎へ引くために、南側の山を避けて東へ迂回しています。



京都の絵図
松ヶ崎学区のホームページより借用

松ヶ崎地区は、皇室との関係が深いと言う言い伝えの一つが松ヶ崎百人衆です。これは桓武天皇の平安遷都の折、奈良、平城京から百姓百軒を松ヶ崎に移住させ田と山林を貸し与えて皇室の為の米作りをさせたというものです。その為、分家は許されず常に百軒の農家が安定して作物を作るということが要求された。

記：大岡成一